香川県の地震

令和８年（２０２６年）１０月

香川県の地震活動
震央分布図、断面図 ・・・ 1
地震概況 ・・・ 2
香川県の地震表（震度１以上） ・・・ 2
震度分布図 ・・・ 3

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果
（令和８年（2026年）11月９日） ・・・ 4

地震一口メモ
異常震域について ・・・ 5

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

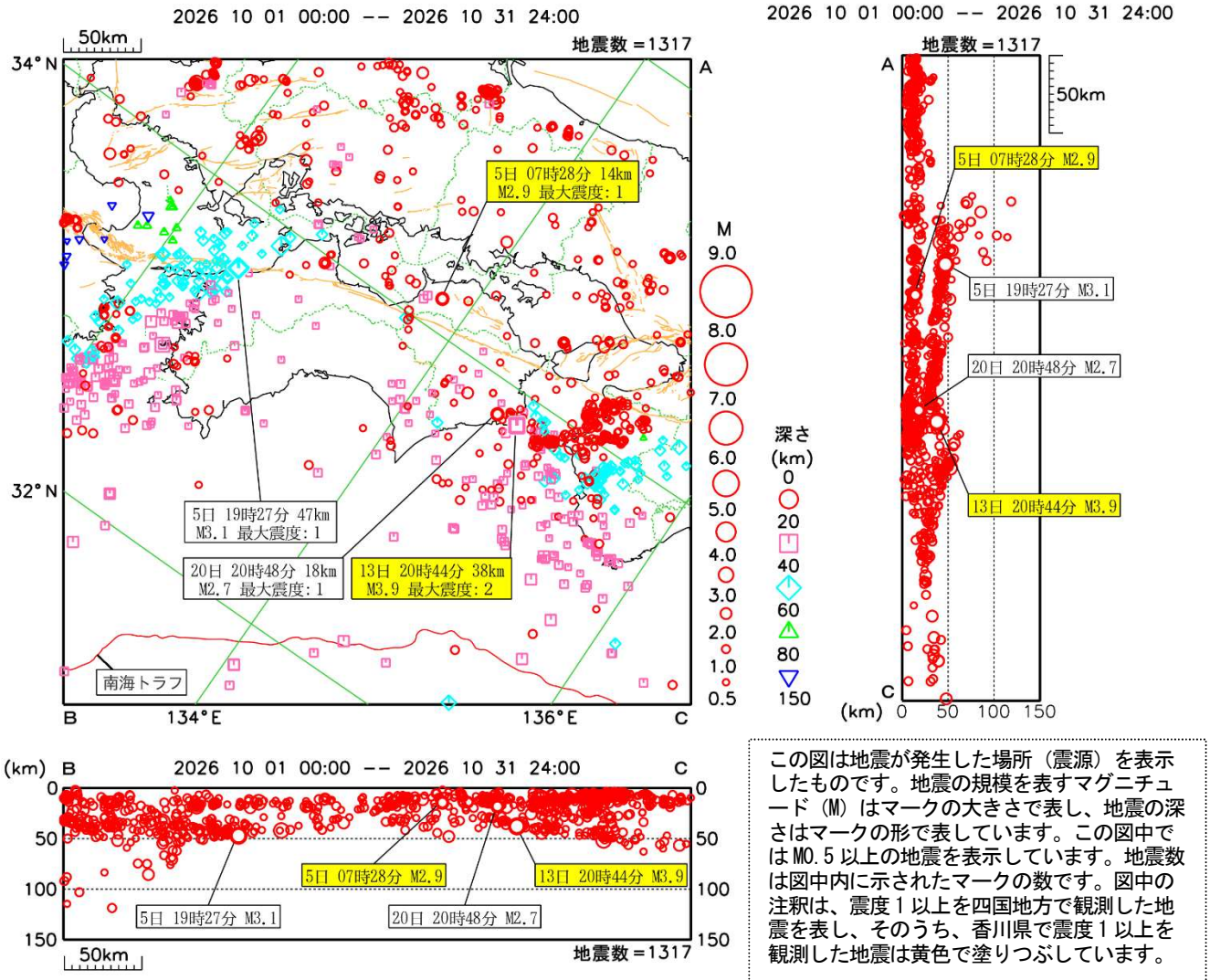
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高 松 地 方 気 象 台

【香川県の地震活動】

2026 年 10 月

◎震央分布図、断面図



この図は地震が発生した場所（震源）を表示したものです。地震の規模を表すマグニチュード（M）はマークの大きさで表し、地震の深さはマークの形で表しています。この図中では M0.5 以上の地震を表示しています。地震数は図中内に示されたマークの数です。図中の注釈は、震度１以上を四国地方で観測した地震を表し、そのうち、香川県で震度１以上を観測した地震は黄色で塗りつぶしています。

〔左上：震央分布図、右上：A-C を投影面とした断面図、左下：B-C を投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度１以上を観測した地震は、次の２回でした（前月は０回）。

５日 07 時 28 分 香川県西部の地震（深さ 14km、M2.9）により、丸亀市・観音寺市・宇多津町・琴平町・三豊市・まんのう町・綾川町で震度１を観測しました。

13 日 20 時 44 分 徳島県南部の地震（深さ 38km、M3.9）により、東かがわ市・さぬき市・小豆島町で震度１を観測しました。この地震により、徳島県小松島市・石井町、和歌山県湯浅町で震度２を観測したほか、徳島県、高知県、和歌山県、兵庫県で震度１を観測しました。

四国で震度１以上を観測した地震（上記の地震を除く）は、次の３回でした。

５日 19 時 27 分 伊予灘の地震（深さ 47km、M3.1）により、愛媛県松山市・久万高原町で震度１を観測しました。

20 日 20 時 48 分 徳島県南部の地震（深さ 18km、M2.7）により、徳島県那賀町で震度１を観測しました。

25 日 08 時 59 分 日向灘の地震（深さ 7km、M5.2：震央分布図地図範囲外）により、愛媛県宇和島市、高知県宿毛市で震度１を観測しました。この地震では、熊本県、宮崎県、鹿児島県で震度３を観測したほか、中国・九州地方で震度２～１を観測しました。

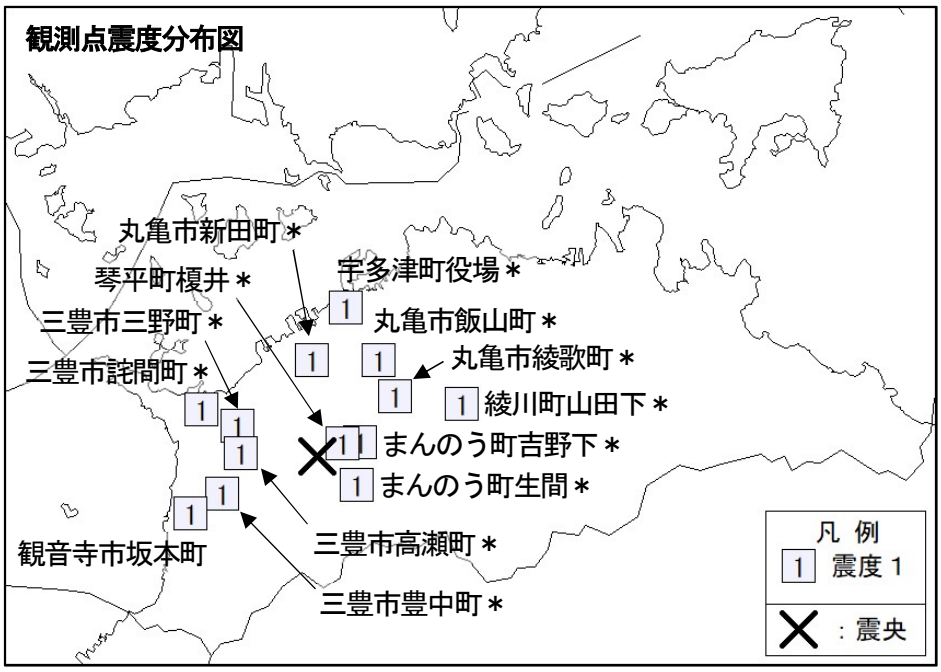
◎香川県の地震表（震度１以上）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2026 年 10 月 05 日 07 時 28 分	香川県西部	34° 10.8’ N	133° 47.7’ E	14km	M2.9
香川県　震度１：	丸亀市新田町＊,丸亀市綾歌町＊,丸亀市飯山町＊,観音寺市坂本町 宇多津町役場＊,琴平町榎井＊,三豊市豊中町＊,三豊市高瀬町＊ 三豊市三野町＊,三豊市詫間町＊,まんのう町吉野下＊,まんのう町生間＊ 綾川町山田下＊				
2026 年 10 月 13 日 20 時 44 分	徳島県南部	33° 49.3’ N	134° 43.5’ E	38km	M3.9
香川県　震度１：	東かがわ市西村,東かがわ市南野＊,東かがわ市引田＊,東かがわ市湊＊ さぬき市長尾総合公園＊,さぬき市志度＊,さぬき市寒川町＊,さぬき市大川町＊ 小豆島町馬木＊				

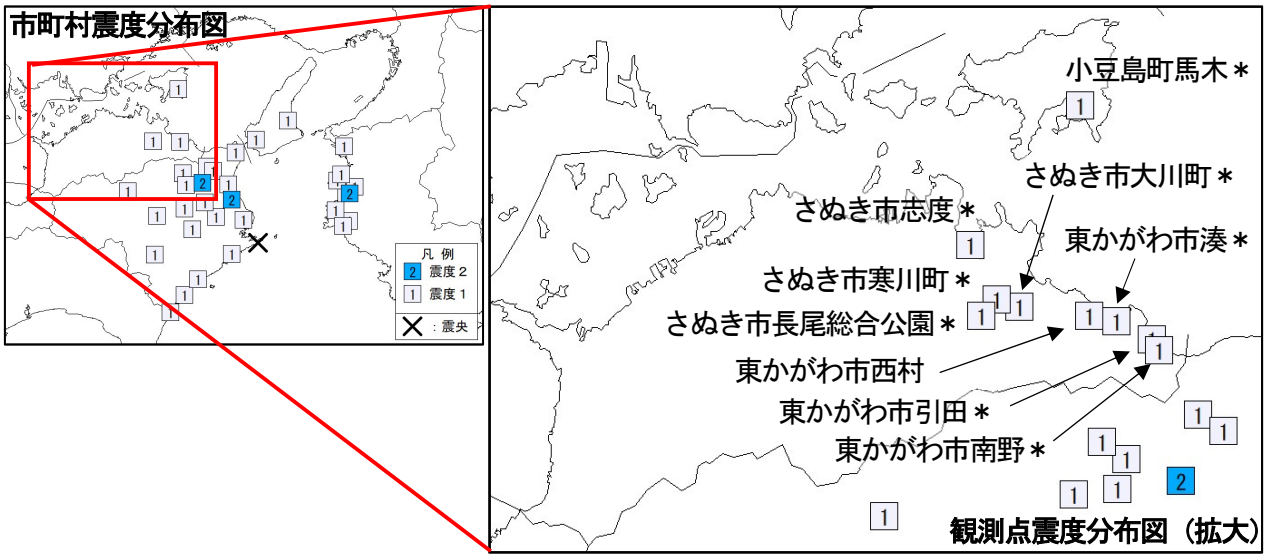
＊は気象庁以外の震度観測点

◎震度分布図

2026 年 10 月 05 日 07 時 28 分　香川県西部の地震



2026 年 10 月 13 日 20 時 44 分　徳島県南部の地震



＊は気象庁以外の震度観測点

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を毎月開催しています。

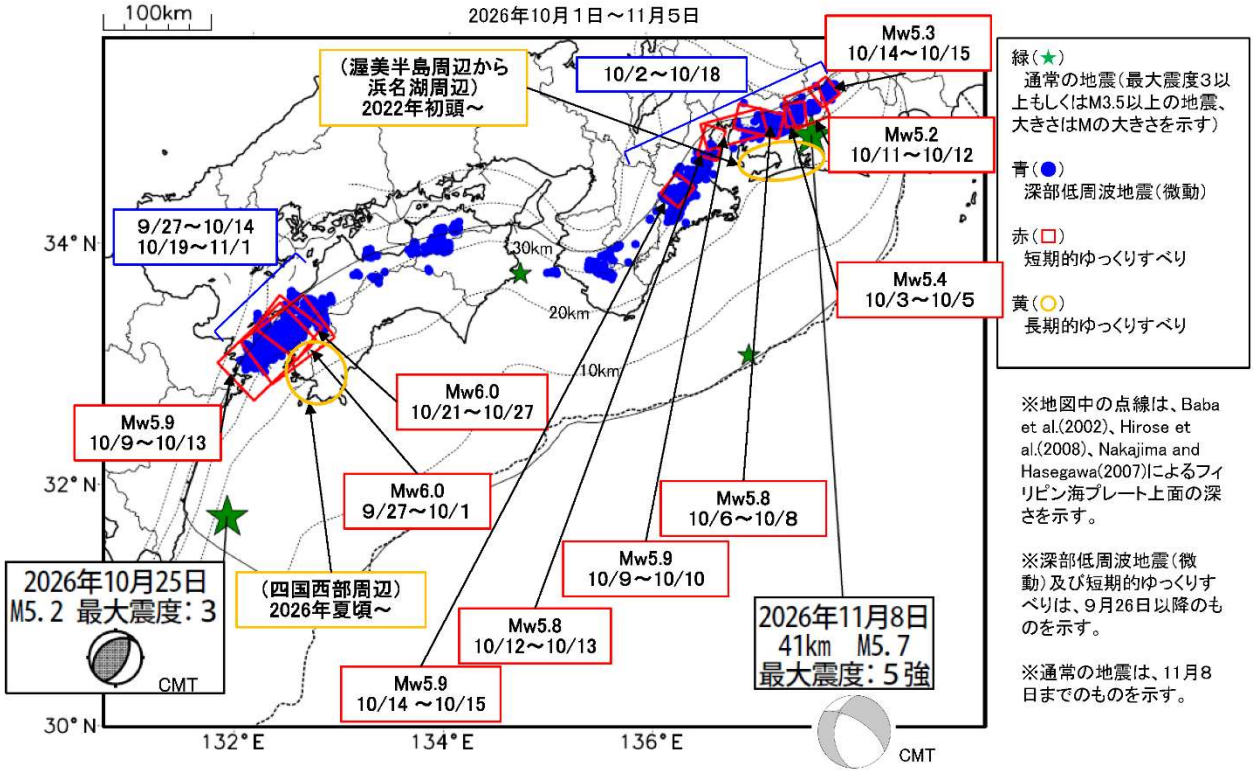
令和８年(2026 年)11 月９日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果（概要）】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（Ｍ８からＭ９クラス）は、「平常時」においても今後３０年以内に発生する確率は高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約８０年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震（最大震度3以上もしくはM3.5以上）・・・・・・・・・気象庁の解析結果による。
深部低周波地震（微動）・・・・・・・・・（震源データ）気象庁の解析結果による。　（活動期間）気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・【四国西部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
【東海から紀伊半島北部】気象庁の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震（青●）、短期的ゆっくりすべり（赤□）、長期的ゆっくりすべり（黄○）について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

南海トラフ地震関連解説情報について　ー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー

https://www.jma.go.jp/jma/press/2611/09a/nt20261109.html

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ（ＵＲＬ）をご参照ください。

ホーム＞防災情報＞南海トラフ地震関連情報

https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/

【地震一口メモ】

異常震域について

かなり深い場所で発生した地震（深発地震）では、震源の真上ではほとんど揺れないのに、震源から遠く離れた場所で揺れを感じることがあります。この現象は、「異常震域」という名称で知られています。原因は、地球内部の岩盤の性質の違いによるものです。

プレートがぶつかり合うようなところでは、海洋プレートが陸のプレートの地下深くまで沈み込んでいます。一般に、地震波は震源から遠くなるほど弱まりますが、図１のように、海洋プレートでは、地震波があまり弱まらずに遠くの場所まで伝わりやすい性質を持っています。このため、沈み込んだ海洋プレートのかなり深い場所で地震が発生すると、震源の真上には地震波が伝わりにくい一方で、海洋プレートでは地震波があまり弱まらずに遠くの場所まで伝わります。その結果、震源の真上の地表での揺れ（震度）が小さくても、震源から遠く離れた場所で揺れ（震度）が大きくなることがあります。

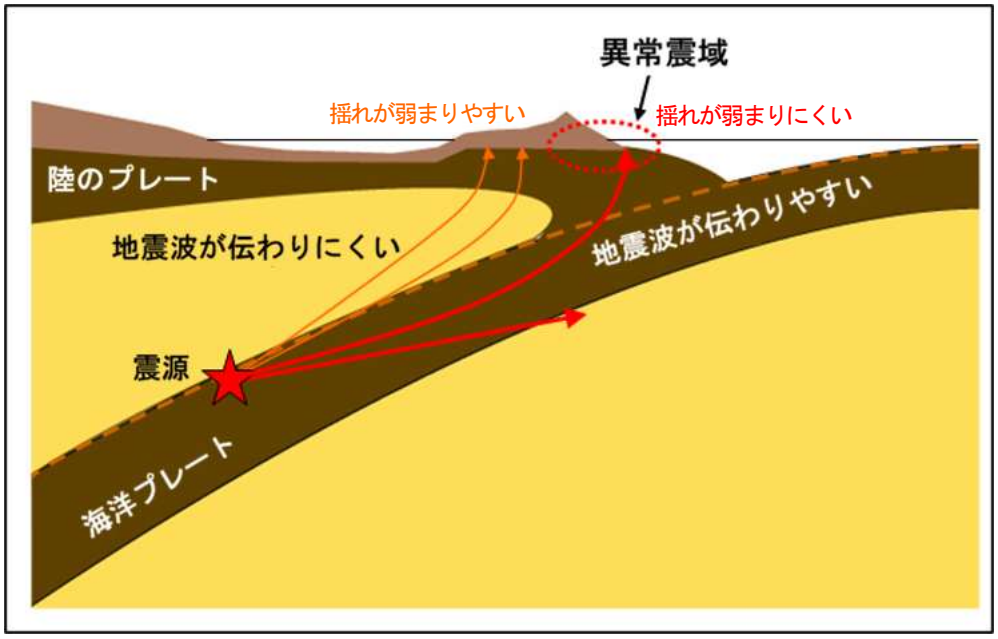


図１　深発地震と異常震域

異常震域の多くは太平洋プレートの沈み込みによる深発地震で観測されていますが（図２）、フィリピン海プレートの沈み込みによって発生した地震でも、震源から遠く離れた四国地方において、震度が観測されることがあります（図３）。

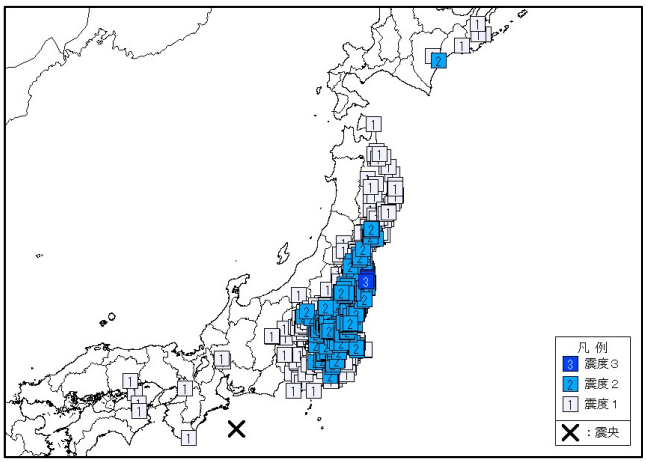


図２　震度分布図
2026 年 11 月 1 日の三重県南東沖の地震
（M6.1、震源の深さ 363km）

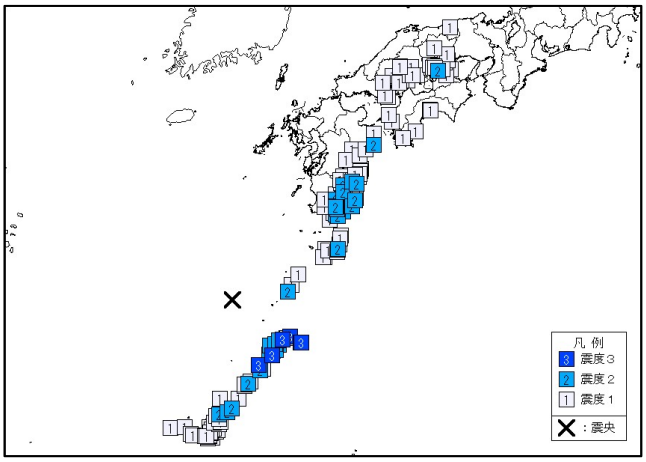


図３　震度分布図
2019 年 7 月 13 日の奄美大島北西沖の地震
（M6.0、震源の深さ 256km）